

エントリー学校名：

新潟県 長岡市立太田小学校・太田中学校

活動名：

未来の学びを拓く教育課程
～SDGsで教科横断的な学びを推進～

解決すべき課題：

20年を迎える小規模特認校の「少人数を生かした指導」「小中一体の教育活動」「地域と共につくる感動体験」という特色ある教育を充実させたい。教室での学びや地域学習を発展させるために、SDGsの視点を生かして社会が抱える課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出す力を育成したい。

目標・方針：

これまでの教育実践を財産に、学校に関与するすべての人々が経験を通して豊かに学び、未来に向かって学び続ける学校を目指す。

日々の授業の学びが社会全体とどのようにかかわっているかをSDGsの視点で比較・関連付けながら、自己の生き方や探究的な見方・考え方の素地を養い、「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性」を認識できるように教育課程を編成し、全教職員で協働的に推進する。

活動内容：

1. ビジョンの共有ツール「教育計画」の改善（資料1）
2. 校内研究とリンクした教科横断的な学びの推進（資料2）
3. 外部リソースを活用した本物体験

活動の成果：

1. 前年度の学校評価の結果を受け、教育課程の見直しをSDGsの視点を取り入れ、全教職員で教育計画を見直した。（写真1）新年度4月に新しい職員と共に教職員のツールとして活用することができた。
・各ページにSDGsの目標を配置、グランドデザインや学校評価の項目にも位置付けて実践（資料3）
2. 校内研究テーマにSDGsを位置付けたことで、全教職員の取組となり、教科横断的な学びにつながった。
・NITS「ピクトグラム」を活用した単元デザインシートとSDGsアイコンを使った授業実践（写真2・3）
3. 地域人材やNPO、国際理解教育の推進者等から専門的視野で教育活動に協力していただいた。
・全国森林インストラクターの実地講義、国際交流センターや大学生ボランティアによるワークショップなど各方面の専門家を招聘し、実社会の現実をもとに学習を深めた。（写真4・5）

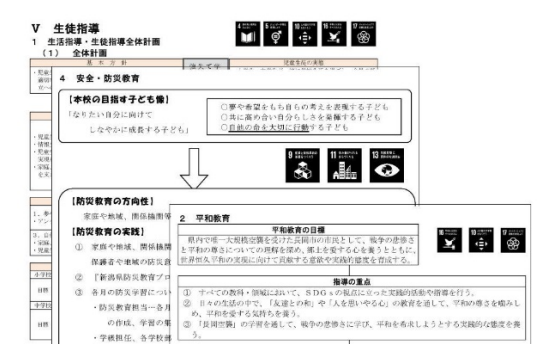
アピールポイント（アイデアや工夫）：

1. SDGsという合い言葉で、子どもや教職員の意識、教育活動のベクトルを揃えることにつながった。
2. 教育計画の見直しは、前例踏襲であることの多かったが、SDGsの視点で見直すことで教育課程全般のつながりを教職員間で再認識することにつながり、組織的に取り組もうとする気運が高まった。
3. 日々の授業の学びがSDGsを通して社会とつながっていることを教師と子どもで共有することができた。
4. 学校行事や外部の専門家からの実体験や交流を通して、子どもたちに学びの必要性や目の前のことが社会とつながっているという探究的な学習に向かう意欲・態度の変容につながった。（資料4）

写真1 学校評価部会でビジョンを共有



資料1 教育計画にSDGsの視点を導入



資料2 SDGsを授業改善に生かす



写真2 単元配列表でSDGsのつながりを協議



写真3 SDGsアイコンを活用した授業実践

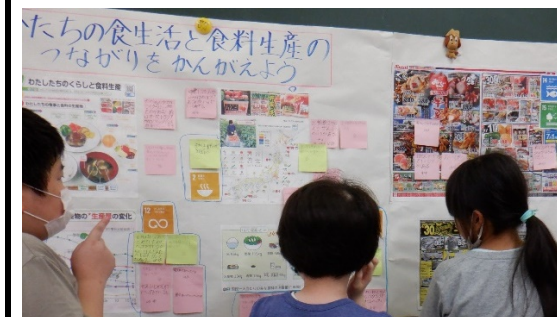


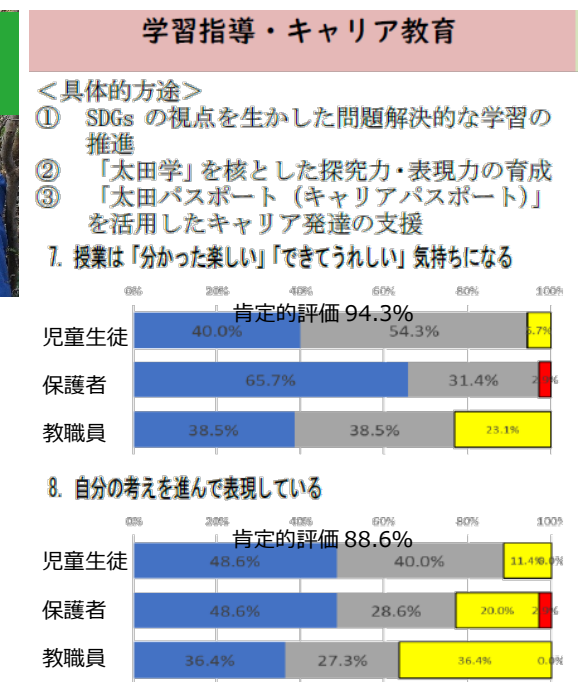
写真4 外国人講師の国調べをSDGsの視点で分類



写真5 地元のブナ林学習会で間伐体験



資料3 前期学校評価（7月実施）



資料4 5つの教育期の振り返り（8・10月末実施）

